

## 令和5年度 第3回 政策調整会議 会議録③

- 
- ◆開催日時：令和5年8月23日（水） 11：03～11：42
  - ◆開催場所：第2委員会室
  - ◆出席委員：堤副市長、波積副市長、大下教育長、西川総合政策部長、残総務部長、寺本財務部長  
船橋魅力創造部長
  - ◆説明者：田宮文化国際課長、太田文化国際担当主幹
- 

### ◆審議事項

文化創造ビジョン・岸和田 ～文化 花 咲かそう・岸和田～ の策定について

・・・・・・・・魅力創造部文化国際課⇒承認

---

### ◆審議概要

◎付議依頼書等に基づき説明

◎説明後、質疑応答

〈堤副市長〉今回、「文化・芸術のまち 岸和田」づくりという新機軸を打ち出した。岸和田市制101年目のスタートに相応しい「新・岸和田」としてのイメージアップにつながる行政計画になったと思う。そのキーワードは“創造”。これまでの歴史と伝統という既存のものだけを重視した文化“振興”とは打って変わって新しく文化・芸術の“創造”に取り組んでいくためのビジョンを策定している。文化・芸術を学校や公的施設の場だけでなく、日常生活の中でもいかに大切かを強く打ち出していく。文化は日ごろから接していないと浸透しないし、誇りも持てない。岸和田市独自の、生活に根付いた文化も積極的に評価していく必要がある。他にはない文化が岸和田市にはたくさんある。それを子どもの頃から身近に感じてほしい。とりわけ「食文化」は新しい視点。これまで取り上げられてこなかったが高いポテンシャルがある。また、これからは新たな文化・芸術の“創造”が非常に重要になることを計画に明確に書き込んだ。今回初めて民間の文化施設についても触れている。

観光との結びつきも非常に重要になる。外国人観光客は食や文化、体験等に関心を持っており、量より質を求めている。本市もいち早くそのニーズを受けて転換していかなければいけない。岸和田ならではの文化・芸術の創造をこの機会に進められたい。また、岸和田市だけの内にこもるのではなく、国と府の動きを注視し、歩調を合わせしていくことを意識すること。

外国人観光客の受け入れを含め、岸和田市全体が国際都市をめざす上で文化・芸術の独自色は重要。このビジョンを、「文化・芸術のまち 岸和田」づくりに向けてこれからの100年で取り組んでいく発射台にしてもらいたい。

〈波積副市長〉アンケートを踏まえ、市の新たな新機軸を示し、岸和田市全体の力を伸ばそうとしているところが素晴らしい。

20～30年を念頭に置いて、食文化を含め岸和田をどう売り出すか、そういう意味で岸

和田の総合力が試される。岸和田市には海側のシラス井から始まり、紀州街道、だんじり会館、自然資料館、岸和田城、さらに満水面積で大阪府内1番目のため池である久米田池などがある。南海電鉄やJR、観光会社を巻き込んで、ビジョンだけで終わらず、観光などに広がりを持たせて進められたい。

〈教 育 長〉以前、著名な文化人が入る会議の雑談の中で、「文化とは心の遊び」という言葉が出たことが非常に印象に残っている。みんなが自由に楽しめるのが文化であり、市民や団体は自分たちの自由な発想のもと物事を展開するようでない、遊びである文化は展開できない。

〈財 務 部 長〉重点目標2「効果的な情報発信および文化芸術への関心の喚起」について、情報発信は手段であり、めざすところは「文化芸術への関心の喚起」である。情報発信をして終わりではなく、関心の喚起についても言及されたい。

「基本目標Ⅳ 未来へつなぐ」に「文化振興基金等の活用」とあるが、計画の中に謳うのであれば、文化振興基金が現在どういう状況で、これからどうしていくのか、どのような事業に充てていくのか、というイメージを持っておく必要がある。

今後の取組予定について、パブリックコメントを9月上旬から10月下旬にかけて実施することとなっている。一方で、連絡会議・作業部会での協議が9月実施となっているがその意図は。

〈文化国際担当主幹〉連絡会議・作業部会は実務担当者の会議であり、9月に実施予定としている。最終的に、11月頃に文化振興審議会に諮問予定。そこでパブリックコメント及び作業部会等で出た意見を踏まえて、最終判断することとしている。

〈財 務 部 長〉連絡会議・作業部会を立ち上げ、一緒に考えているのであれば、そこでパブリックコメントの結果も皆さんに知ってもらう必要があるのではないか。文化は非常に曖昧な概念であり、人により当事者意識の多寡が激しい。当事者意識を醸成する環境づくりのためにも、このスケジュールは再度検討した方がいいのではないか。

〈文化国際担当主幹〉検討する。

〈総 務 部 長〉「基本目標Ⅲ まちの魅力を高める」について、外国人はリピーターになると東京や京都など有名などころではなく、地方独自のカラーを持っているところに行くケースが増えてきている。岸和田らしさを意識し、活かしていくという視点は大事である。人口減少社会の中、ホールに人を集めるのは難しい時代になってくる。周辺自治体と情報共有しながら、令和10年度以降の計画も視野に入れ、ホールの役割に広域連携の視点を入れていく必要がある。

〈総合政策部長〉ビジョンは策定がゴールではなく、どう活用するかが重要である。文化芸術は、なくても生活はできるものだが、どの国、どの時代においても必ず存在し、心を豊かにするものである。心を豊かにするために、まずは機会の提供が必要である。機会の提供という種をまき、成長して花になるというプロセスを支えられるよう、本ビジョンを活用してもらいたい。成長した大きな花が、心の豊かさにつながっていくと考えるので、それぞれのプロセスでの支援方法を考えながら実行されたい。

〈堤 副 市 長〉“創造”についての補足。本文3ページに「食文化」、48ページに「食文化等の生活文化」という文言を追加している。豊かな農産物を活かした「食」を文化として花咲かせ、世界に広めたいのがその趣旨。今までの計画になかった、岸和田市の魅力としての新たな“創造”である。また、「芸術の“創造”」も新機軸として打ち出してい

る。

〈総合政策部長〉本案件について、原案のとおり、政策決定会議に諮ることとしてよいか。

【異議なし】

⇒本件、原案のとおり承認し、政策決定会議に付議する。

令和 5年 8月 10日

### 政策調整会議付議依頼書

依頼者名 魅力創造部長

下記事項について、効果的かつ効率的な市政運営実施のための会議の設置に関する規程第 14 条の規定に基づき、下記のとおり付議を依頼します。

#### 記

付議事項名	文化創造ビジョン・岸和田 ～文化 花 咲かそう・岸和田～ の策定について
付議の目的 (ポイントを絞り込んで、簡潔 に記載すること。)	現行のプランが令和5年度中に終期を迎えるため、現在の社会情勢やこれから始まる新しい文化芸術の創造をふまえ、「誰もが心豊かに暮らせる“文化・芸術のまち岸和田”」の実現を目指し、岸和田市文化振興条例第7条に基づく文化振興計画として、新たなビジョンとして策定するもの。
説明者	船橋 魅力創造部長 田宮 文化国際課長 太田 文化国際課 担当主幹
付議事項の概要	様式別紙に記載(必ず別紙様式をご提出ください。)

付議会議	令和5年度 第3回会議
付議事項	文化創造ビジョン・岸和田～文化 花 咲かそう・岸和田～ の策定について

★取組の目的

対象	市民及び文化団体
どのような状態を目指す	「誰もが心豊かに暮らせる文化のまち岸和田」の実現を目指す

★総合計画上の位置付け

101010302	基本目標	I-1 生きがいを創造する
↑ここにコードを入力 (コードは「総計体系」を参照)	達成された姿	①生涯にわたって能力を伸ばすことができる
	目指す成果	③多くの市民が豊かで創造性のある芸術・文化に親しんでいる
	行政の役割	イ 市民の芸術・文化活動を支援する

★現状と課題

<現状>  
伝統的な祭りや歴史的景観が評価される一方で、文化芸術イベントの開催や市民による活動の活発さ等についてあまり評価されていない。過去1年間に何らかの文化・芸術を直接鑑賞した人が多い一方、何らかの創造活動を行った人は少ない。ただし文化にふれることについては、大半の人が大切だと感じている。令和2年度から3年度において、新型コロナウイルス感染症により活動の中止・縮小を余儀なくされ、現状もコロナ禍以前の活動水準まで完全には至っていない。

<課題>  
子どもたちや子育て世代、働き盛り世代など幅広い市民の文化への興味や関心を醸成するとともに、次代の文化を担う活動団体の人材の確保し後継者を育成する必要がある。また、文化の役割を再認識し、その価値をより一層高め、特に情報発信の強化により、市民の目に触れやすい文化活動の展開、文化団体による活動の活性化、これから始めたいと思う個人・グループのきっかけづくりなど、情報発信の強化と文化活動の環境づくりを推進し、文化団体会員の確保や後継者の育成が必要である。

(単位:千円)

実施中の取組及び予定する事項	決算(見込額)		予算額		見込額			
	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
芸術文化普及事業 【毎年度実施】	6,033	6,961	10,156	9,358	9,358	9,358	9,358	9,358
文化団体支援事業 【毎年度実施】	2,231	2,300	2,410	2,410	2,067	2,067	2,067	2,067
文化振興計画推進事業 【毎年度実施】	85	94	626	2,529	94	94	94	94
芸術文化普及事業(100周年記念事業・塩田千春展) 【令和4年8月～令和5年9月末】			12,901					
財源内訳	国費		581					
	府費							
	起債							
	一般財源	8,349	9,355	20,512	14,297	11,519	11,519	11,519
	その他			5,000				
事業費	計			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
			60,373	14,297	11,519	11,519	11,519	11,519

★当該事項に関連する人員増の必要性\*

人員増の必要性	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
有					
無					

★取組の効果を表す指標

指標名	単位	目標値(みんなでめざそう値)							最終値 ～R10年度
		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
① この1年間に芸術・文化活動を行ったことがある市民の割合	%	37.0	17.4	27.2	-	-	-	30.0	32.0
② 市民一人あたりの文化施設年間利用回数	回	0.9	2.2	-	-	-	-	3.0	3.1

文化施設3館の事業評価 (S:計画以上の効果があった A:ほぼ計画どおりであった B:計画をやや達成できず C:計画を達成できず(省略))

指標銘	文化施設名	4段階評価	単位	実績	目標
③ 1年間で文化施設3館で実施した事業について、全体を100%として4段階評価を行った場合の各評価における割合	浪切ホール	S	% rowspan="12">	1.5	5.0
		A		71.0	80.0
		B		26.6	15.0
	自泉会館	S		30.5	35.0
		A		56.5	60.0
		B		12.3	5.0
	文化会館 (マドカホール)	S		4.2	10.0
		A		84.7	85.0
		B		5.8	5.0

※事業費及び人員を確約するものではない。